

2006年12月5日

2007年3月期 中間決算説明会用資料

中間連結決算 実績計画対比表	頁 1 ~ 2
分析機器事業	頁 3 ~ 9
自動認識事業	頁 10 ~ 12

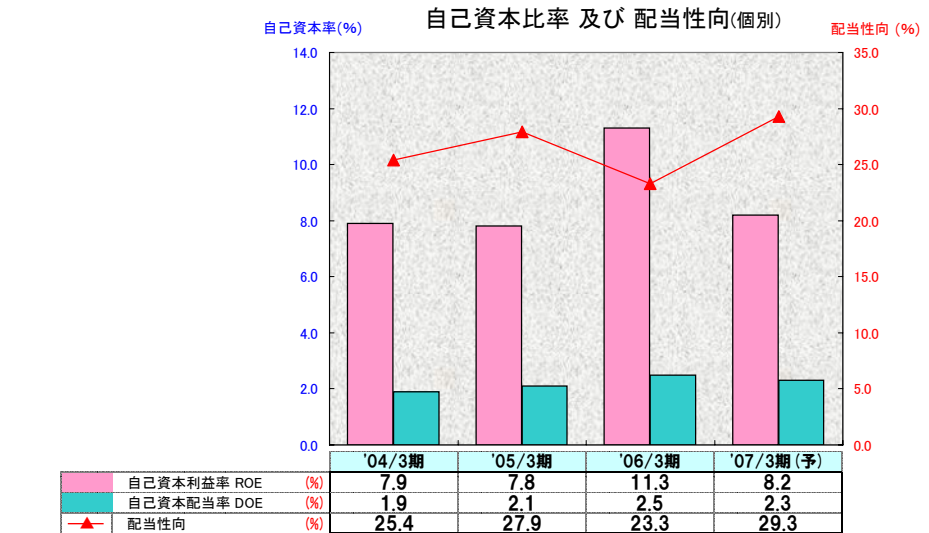
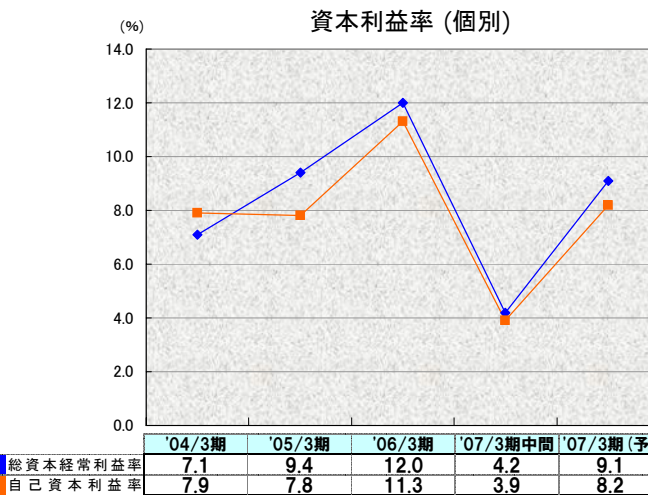
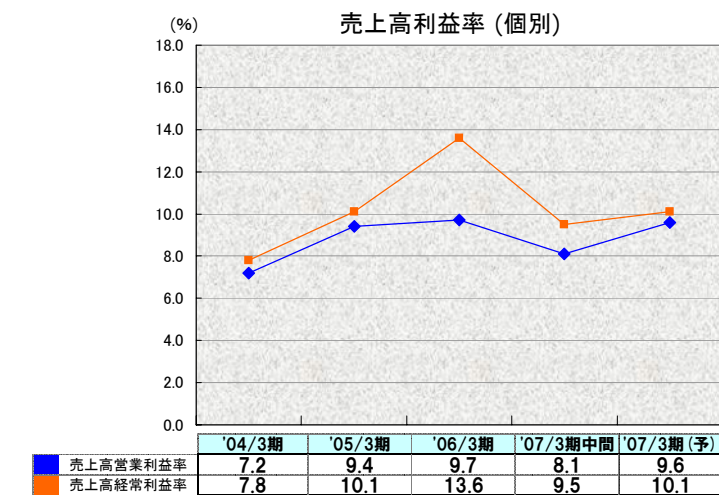
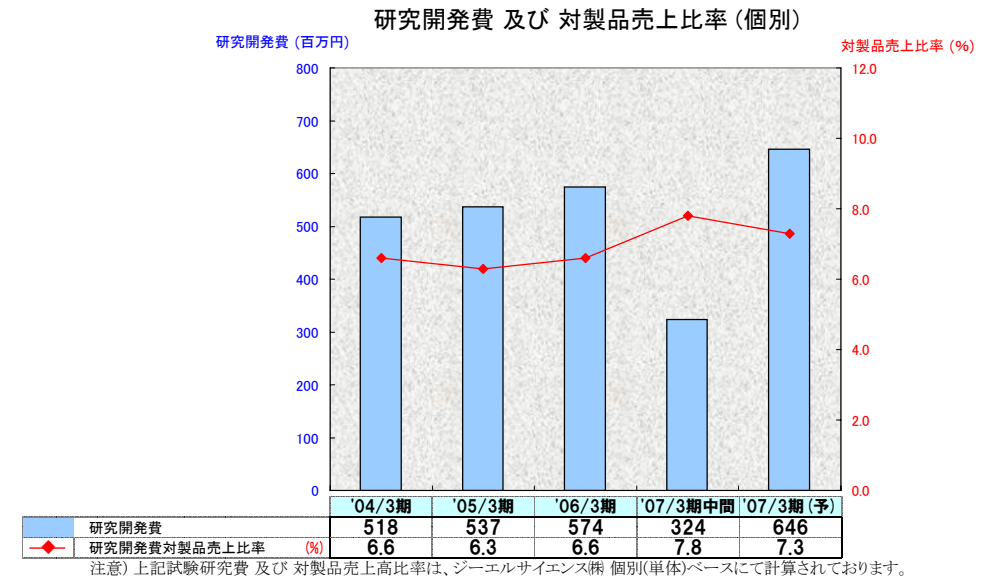
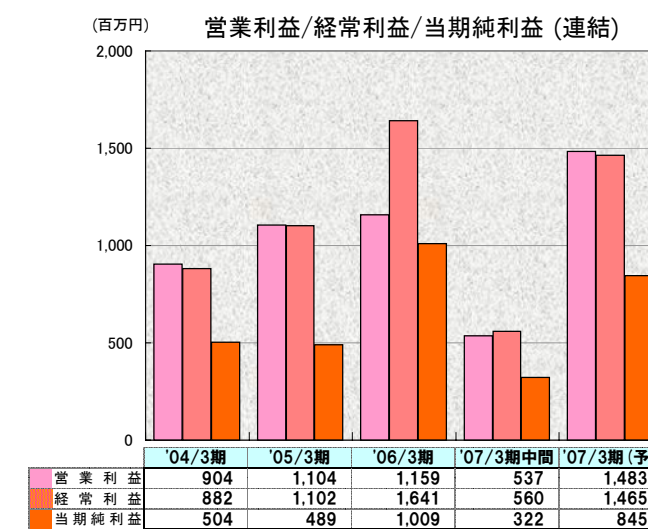
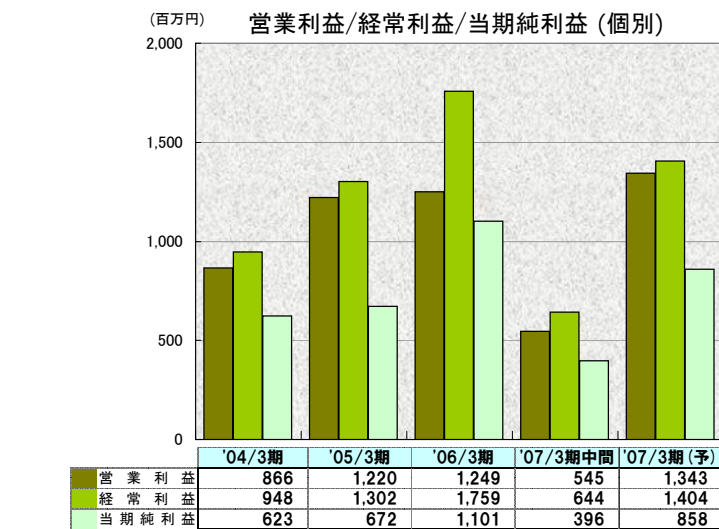
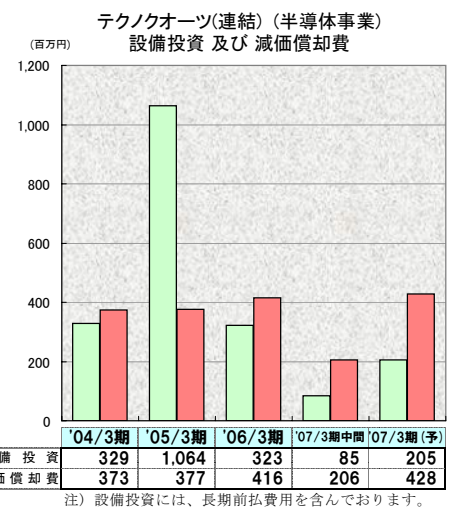
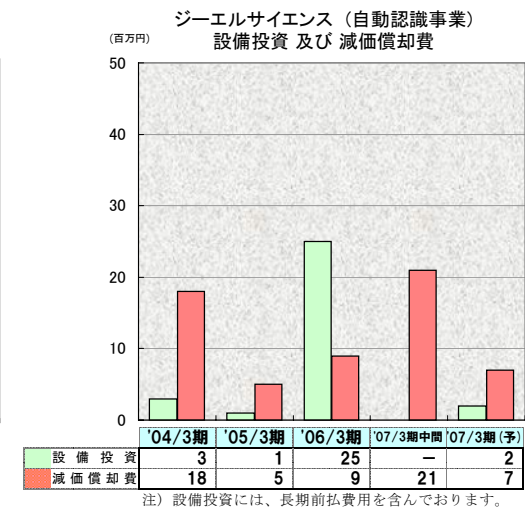
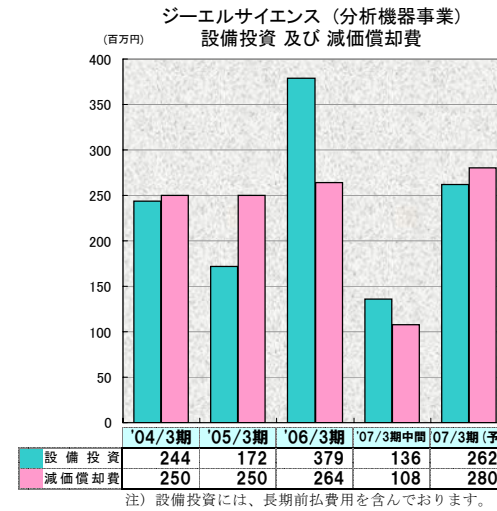
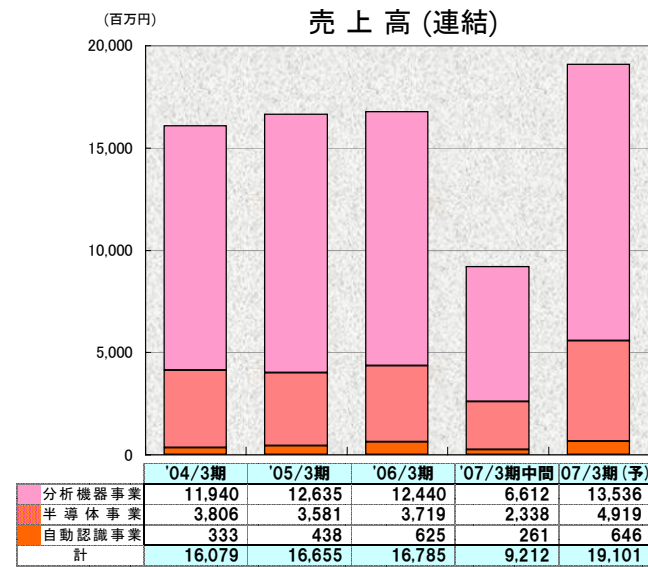
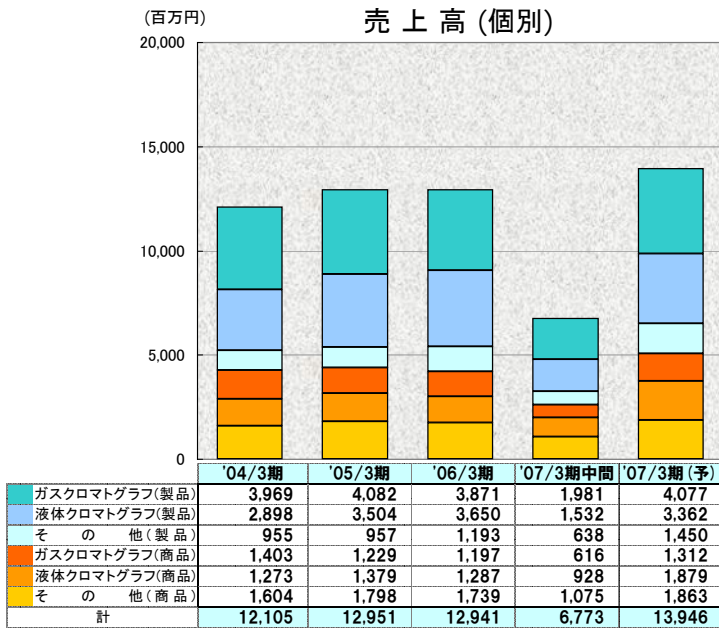
平成19年3月期 中間連結決算 実績計画 対比表 (対前年同期実績)

●中間決算 ①前期実績 / ②当期実績

中間決算	ジェルサイエンス(株) (分析機器事業)						ジェルサイエンス(株) (自動認識事業)						ジェルサイエンス(株) 個別決算 (分析機器+自動認識)						テクノオーツ(連結) (半導体事業)						ATAS GL International B.V. (分析機器事業)						GL Sciences, Inc. (USA) (分析機器事業)						連結決算					
	前期実績 中間決算		当期実績 中間決算		差異		前期実績 中間決算		当期実績 中間決算		差異		前期実績 中間決算		当期実績 中間決算		差異		前期実績 中間決算		当期実績 中間決算		差異		前期実績 中間決算		当期実績 中間決算		差異		前期実績 中間決算		当期実績 中間決算		差異							
	千円	%	千円	%	千円	%	千円	%	千円	%	千円	%	千円	%	千円	%	千円	%	千円	%	千円	%	千円	%	千円	%	千円	%	千円	%	千円	%	千円	%	千円	%						
売上高	5,643,411	100.0	6,512,024	100.0	868,613	15.4	272,279	100.0	265,565	100.0	▲6,714	▲2.5	5,911,357	100.0	6,773,986	100.0	862,629	14.6	1,714,377	100.0	2,397,398	100.0	683,021	39.8	57,034	100.0	82,997	100.0	25,963	45.5	48,519	100.0	64,526	100.0	16,007	33.0	7,616,732	100.0	9,212,790	100.0	1,596,058	21.0
売上原価	3,564,440		4,352,997		788,557		150,780		146,750		▲4,030		3,710,887		4,496,144		785,257		1,369,553		1,942,372		572,819		30,988		41,001		10,013		36,479		43,265		6,786		5,026,748		6,406,454		1,379,706	
売上総利益	2,078,970	36.8	2,159,027	33.2	80,057	3.9	121,499	44.6	118,814	44.7	▲2,685	▲2.2	2,200,469	37.2	2,277,841	33.6	77,372	3.5	344,824	20.1	455,026	19.0	110,202	32.0	26,045	45.7	41,996	50.6	15,951	61.2	12,040	24.8	21,261	33.0	9,221	76.6	2,589,984	34.0	2,806,335	30.5	216,351	8.4
販売費及び一般管理費	1,541,619		1,619,339		77,720		81,327		113,106		31,779		1,622,947		1,732,446		109,499		465,074		458,346		▲6,728		60,330		62,061		1,731		17,110		24,476		7,366		2,159,232		2,269,143		109,911	
営業利益	537,350	9.5	539,687	8.3	2,337	0.4	40,171	14.8	5,707	2.2	▲34,464	▲85.8	577,522	9.8	545,395	8.1	▲32,127	▲5.6	▲120,250	▲7.0	▲3,320	▲0.1	116,930	—	▲34,285	▲60.1	▲20,064	▲24.2	14,221	—	▲5,070	▲10.5	▲3,214	▲5.0	1,856	—	430,751	5.7	537,191	5.8	106,440	24.7
営業外収益	365,386		121,853		▲243,533		355		—		▲355		365,741		121,854		▲243,887		45,729		21,075		▲24,654		571		1,275		704		2,249		101		▲2,148		334,391		76,420		▲257,971	
営業外費用	9,254		22,677		13,423		10,109		—		▲10,109		19,363		22,677		3,314		17,467		39,034		21,567		4,617		2,402		▲2,215		1,998		2		▲1,996		40,304		53,186		12,882	
経常利益	893,482	15.8	638,864	9.8	▲254,618	▲28.5	30,417	11.2	5,707	2.2	▲24,710	▲81.2	923,900	15.6	644,572	9.5	▲279,328	▲30.2	▲91,988	▲5.4	▲21,279	▲0.9	70,709	—	▲38,331	▲67.2	▲21,192	▲25.5	17,139	—	▲4,819	▲9.9	▲3,116	▲4.8	1,703	—	724,838	9.5	560,426	6.1	▲164,412	▲22.7
特別利益	59,242		20,791		▲38,451		—		—		—		59,242		20,791		▲38,451		5,208		6,066		858		—		—		—		—		—		2,083		26,722		24,639			
特別損失	100,101		25,975		▲74,126		—		—		—		100,101		25,975		▲74,126		1,026		3,888		2,862		—		—		—		—		—		2,589		4,653		2,064			
税引前当期利益	852,623	15.1	633,680	9.7	▲218,943	▲25.7	30,417	11.2	5,707	2.2	▲24,710	▲81.2	883,041	14.9	639,387	9.4	▲243,654	▲27.6	▲87,806	▲5.1	▲19,101	▲0.8	68,705	—	▲38,331	▲67.2	▲21,192	▲25.5	17,139	—	▲4,819	▲9.9	▲3,116	▲4.8	1,703	—	724,333	9.5	582,495	6.3	▲141,838	▲19.6
(法人税等)	(340,000)		(226,000)		(▲114,000)		(—)		(—)		(—)		(340,000)		(226,000)		(▲114,000)		(4,400)		(15,200)		(10,800)		(—)		(—)		(—)		(—)		(—)		(—)		(344,400)		(241,447)		(▲102,953)	
(税効果)	(▲7,455)		(16,611)		(24,066)		(—)		(—)		(—)		(▲7,455)		(16,611)		(24,066)		(▲21,756)		(6,226)		(27,982)		(—)		(—)		(—)		(—)		(—)		(—)		(▲12,542)		(33,122)		(45,664)	
税合計	332,544		242,611		▲89,933		—		—		—		332,544		242,611		▲89,933		▲17,356		21,426		38,782		—		—		—		—		—		—		331,857		274,569		▲57,288	
税引後当期利益	520,079	9.2	391,068	6.0	▲129,011	▲24.8	30,417	11.2	5,707	2.2	▲24,710	▲81.2	550,497	9.3	396,776	5.9	▲153,721	▲27.9	▲70,449	▲4.1	▲40,527	▲1.7	29,922	—	▲38,331	▲67.2	▲21,192	▲25.5	17,139	—	▲4,819	▲9.9	▲3,363	▲5.2	1,456	—	392,476	5.2	307,925	3.3	▲84,551	▲21.5
少数株主利益	—		—		—		—		—		—		—		—		—		—		—		—		—		—		—		—		—		—		▲24,296		▲14,412		9,884	
当期純利益	520,078	9.2	391,068	6.0	▲129,010	▲24.8	30,417	11.2	5,707	2.2	▲24,710	▲81.2	550,496	9.3	396,776	5.9	▲153,720	▲27.9	▲70,449	▲4.1	▲40,527	▲1.7	29,922	—	▲38,331	▲67.2	▲21,192	▲25.5	17,139	—	▲4,819	▲9.9	▲3,363	▲5.2	1,456	—	416,772	5.5	322,338	3.5	▲84,434	▲22.7

●期末決算 ①前期実績 / ②当期見直し後計画

通期	ジェルサイエンス(株) (分析機器事業)						ジェルサイエンス(株) (自動認識事業)						ジェルサイエンス(株) 個別決算 (分析機器+自動認識)						テクノオーツ(連結) (半導体事業)						ATAS GL International B.V. (分析機器事業)						GL Sciences, Inc. (USA) (分析機器事業)						連結決算					
	前期実績		当期見直し後		差異		前期実績		当期見直し後		差異		前期実績		当期見直し後		差異		前期実績		当期見直し後		差異		前期実績		当期見直し後		差異		前期実績		当期見直し後		差異							
	千円	%	千円	%	千円	%	千円	%	千円	%	千円	%	千円	%	千円	%	千円	%	千円	%	千円	%	千円	%	千円	%	千円	%	千円	%	千円	%	千円	%	千円	%						
売上高	12,315,831	100.0	13,300,000	100.0	984,169	8.0	633,643	100.0	650,000	100.0	16,357	2.6	12,941,134	100.0	13,946,396	100.0	1,005,262	7.8	3,842,161	100.0	5,032,898	100.0	1,190,737	31.0	148,280	100.0	172,950	100.0	24,670	16.6	121,905	100.0	198,072	100.0	76,167	62.5	16,785,947	100.0	19,101,772	100.0	2,315,825	13.8
売上原価	8,049,177		8,648,730		599,553		368,886		367,031		▲1,855		8,409,723		9,012,158		602,435		2,994,227		3,984,424		990,197		82,924		85,978		3,054		88,334		119,692		31,358		11,311,084		12,943,495		1,632,411	
売上総利益	4,266,653	34.6	4,651,270	35.0	384,617	9.0	264,757	41.8	282,968	43.5	18,211	6.9	4,531,410	35.0	4,934,238	35.4	402,828	8.9	847,934	22.1	1,048,474	20.8	200,540	23.7	65,356	44.1	86,972	50.3	21,616	33.1	33,571	27.5	78,380	39.6	44,809	133.5	5,474,862	32.6	6,158,276	32.2	683,414	12.5
販売費及び一般管理費	3,103,129		3,348,270		245,141		178,984		242,968		63,984		3,282,114		3,591,238		309,124		892,731		931,057		38,326		119,042		116,081		▲2,961		33,327		44,203		10,876		4,315,570		4,674,392		358,822	
営業利益	1,163,524	9.5	1,303,000	9.8	139,476	12.0	85,772	13.5	40,000	6.2	▲45,772	▲53.4	1,249,296	9.7	1,343,000	9.6	93,704	7.5	▲44,796	▲1.2	117,417	2.3	162,213	—	▲53,686	▲36.2	▲29,108	▲16.8	24,578	—	243	0.2	34,177	17.3	33,934	13964.6	1,159,292	6.9	1,483,883	7.8	324,591	28.0
営業外収益	564,551		108,005		▲456,546		355		—		▲355		564,907		108,005		▲456,902		96,216		67,223		▲28,993		1,051		1,275		224		350		177		▲173		574,343		89,001		▲485,342	
営業外費用	44,695		46,677		1,982		10,109		—		▲10,109		54,804		46,677		▲8,127		34,596		84,756		50,160		6,320		7,069		749		—		—		—		92,094		107,777		15,683	
経常利益	1,683,380	13.7	1,364,328	10.3	▲319,052	▲19.0	76,018	12.0	40,000	6.2	▲36,018	▲47.4	1,759,399	13.6	1,404,328	10.1	▲355,071	▲20.2	▲44,796	▲1.2	117,417	2.3	162,213	—	▲58,955	▲39.8	▲34,903	▲20.2	24,052	—	594	0.5	34,354	17.3	33,760	5683.5	1,641,541	9.8	1,465,107	7.7	▲176,434	▲10.7
特別利益	146,132		20,791		▲125,341		—		—		—		146,132		20,791		▲125,341		14,573		6,066		▲8,507		—		—		—		—		—		—		137,146		26,722		▲110,424	
特別損失	103,498		43,975		▲59,523		2																																			



会社別実績及び計画数値

	ジェルサイエンス株式会社																				テクノクオーツ株式会社(連結)				ATAS GL International B.V.				GL Sciences, Inc. (USA)				連結決算			
	分析機器事業										自動認識事業																									
	'04/3期	'05/3期	'06/3期	'07/3期中間	'07/3期(予)	'04/3期	'05/3期	'06/3期	'07/3期中間	'07/3期(予)	'04/3期	'05/3期	'06/3期	'07/3期中間	'07/3期(予)	'04/3期	'05/3期	'06/3期	'07/3期中間	'07/3期(予)	'05/3期	'06/3期	'07/3期中間	'07/3期(予)	'04/3期	'05/3期	'06/3期	'07/3期中間	'07/3期(予)							
売上高	11,772	12,512	12,315	6,512	13,300	362	447	633	265	650	12,105	12,951	12,941	6,773	13,946	3,919	3,690	3,842	2,397	5,032	200	174	148	82	172	-	121	64	198	16,079	16,655	16,785	9,212	19,101		
売上総利益	3,840	4,280	4,266	2,159	4,651	151	188	264	118	282	3,991	4,468	4,531	2,277	4,934	917	852	847	455	1,048	99	88	65	41	86	-	33	21	78	4,999	5,406	5,474	2,806	6,158		
営業利益	891	1,192	1,163	539	1,303	▲24	28	85	5	40	866	1,220	1,249	545	1,343	23	▲94	▲44	▲3	117	11	▲23	▲53	▲20	▲29	▲4	0	▲3	34	904	1,104	1,159	537	1,483		
経常利益	973	1,274	1,683	638	1,364	▲25	28	76	5	40	948	1,302	1,759	644	1,404	17	▲89	16	▲21	99	0	▲32	▲58	▲21	▲34	▲4	0	▲3	34	882	1,102	1,641	560	1,465		
税引前当期利益	1,104	1,013	1,726	633	1,341	▲50	28	76	5	40	1,054	1,041	1,802	639	1,381	▲0	▲134	28	▲19	102	0	▲37	▲76	▲21	▲34	▲4	0	▲3	34	970	833	1,753	582	1,469		
当期純利益	673	644	1,025	391	818	▲50	28	76	5	40	623	672	1,101	396	858	▲47	▲140	3	▲40	35	0	▲37	▲76	▲21	▲34	▲4	0	▲3	22	504	489	1,009	322	845		

(単位:百万円)

ジーエルサイエンス株式会社 平成19年3月期 中間決算説明会

1. 第40期上期売上計画達成概況について

第40期(平成19年3月期)上期の分析機器事業部門の当初売上計画は6,421,000千円(64億2千百万円)であり、それに対し実績は6,512,024千円(海外部含む)の結果となり、計画達成率は101.4%でした。また、売上総利益は2,159,027千円で計画達成率は96.3%、営業利益は539,687千円で計画達成率103.6%となりました。

第40期は、平成18年5月から施行された「ポジティブリスト制度」導入による需要、および自動車工業会(JAMA)の車室内VOC自主規制に伴い、サンプリングバッグ法による自動車内装材からのVOC測定が各自動車メーカーのスタンダードになったことにもなう需要獲得を目論み、前期に引き続き「食品セミナー」「VOCセミナー」を実施し、まずは種蒔きを実施いたしました。

この事により、徐々に芽は膨らみ始め、固相を始めとする前処理関連製品の需要が動き始めております。

また当社ブランド製品である「イナートシル(Inertsil)」および「イナートキャップ(InertCap)」が堅調に伸びております。

2. 第40期主力製品群の動向と販売プロモーション

《高利益付加価値製品群》

当社が世界に誇る“イナートファミリー”

- ・イナートシル(Inertsil)：LC(液体クロマトグラフ)充填カラム
- ・イナートキャップ(Inertcap)：GC(ガスクロマトグラフ)キャピラリーカラム
- ・イナートセップ(Inertsep)：試料濃縮用固相カートリッジ

第37期(平成15年度)にラインナップを完成した高付加価値製品群のイナートファミリーは、順調にその生産、販売高を伸ばし続けております。

これらの製品群は当社の登録商標である「イナート(Inert)」のイメージを継承発展させ、既に国内外において一定のシェアを有する「イナートシル(Inertsil)」に継ぐ大きな柱として育て上げております。

先行製品「イナートシル(Inertsil)」の国外対国内の販売数割合は約70:30となっており、圧倒的に海外販売数が国内を上回っており、当社が世界に誇れる代表製品となっております。第40期上期の実績は、国外、国内それぞれ前年度比12.6%、21.8%の販売増と、GLの顔としての大きな伸びを示しております。

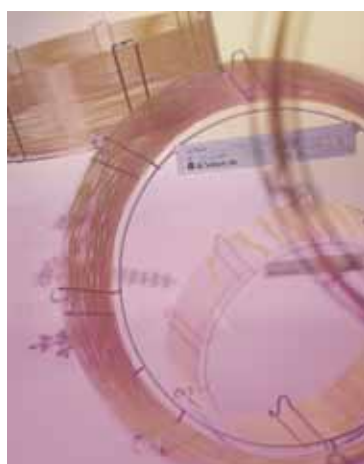
「イナートキャップ(Inertcap)」は、GCキャピラリーカラムとして唯一、国産化に成功している製品です。当社創業以来の圧倒的な高シェアを維持しているガスクロマトグラフの使用消耗品に、全くの新風を吹き込み、停滞気味の同市場に、活性を促す絶好のアイテムと言えます。第40期上期は、今期計画に対しては、95.6%と若干及ばないものの、前年度比9.5%の伸びとなっております。

「イナートセップ(Inertsep)」は、試料前処理固相カートリッジの当社オリジナル製品であります。前期の好調を維持し、第40期上期も引き続いて堅調な伸びを示し、前期比28.1%増となっております。その背景としては、2004年施行の厚生労働省令第百一号「水道水質基準に関する改定」があり、その分析法改定をターゲットに細心のアプローチを実施し、改訂のポイントとなった省溶媒にフォーカスしてきた環境プロジェクトの活動が奏功していると言えます。

イナートファミリー



INERTSIL®



INERTCAP™



INERTSEP™

《環境・食品市場向け重要アイテム》

残留農薬GPCクリーンアップシステム<G-PREP GPC-8100>

食品市場において平成18年5月からスタートいたしました食品衛生法ポジティブリスト制に完全対応させた食品中の残留農薬分析に高い能力を発揮する試料前処理装置です。

ここで簡単にポジティブリスト制についてご説明いたします。ポジティブリスト制とは、食品衛生法の改訂により、「残留基準の設定されていない農薬が残留する食品の流通を禁止する」制度です。この施行により、分析対象となる残留基準が設定されていない農薬の残留については「人の健康を損なうおそれのない量」(一律基準値)を設定し、それを超えた残留のある農産物の流通を、全面的に禁止するという対応を取っています。これにより一律基準値以下が証明される分析が一齐にスタートするため、市場では装置整備を早急に進めなくてはなりません。

上期は18台を計画いたしておりましたが、10台 34,872千円と計画比55.6%となっております。下期には、市場からの多検体一斉分析の要望にお答えするため、マルチ型を販売開始し(平均販売価格¥5,000,000)巻き返しを図ります。

当社のポジティブリスト制対応装置群としては、本<G-PREP GPC-8100>と、以下に紹介いたします<G-PREP Elute 8060>がございます。

固相溶出送液装置 <G-PREP Elute 8060 >

上記、食品市場のポジティブリスト制を一つのターゲットとして開発された装置です。固相カートリッジを用いた試料前処理において、溶出操作の送液スピードは非常に重要な要素となります。また、溶出操作時の人為的ミスを少なくし、作業効率を向上させるうえで本 <G-PREP Elute 8060 > が大変便利に活用できます。

販売開始時期が多少遅れたことにより、第40期年間計画40台に対し上期は8台の実績ではありますが、下期は各種学会等においてセミナーを展開し、他社に類の無い当装置の拡販を展開いたします。



G-PREP GPC 8100



G-PREP Elute 8060

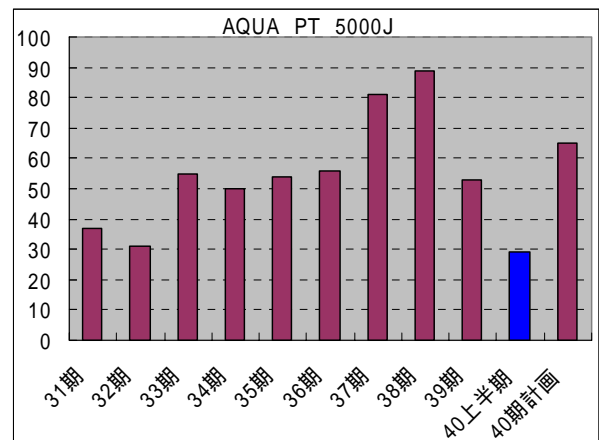
新水質基準施行に準拠した

水質VOC(揮発性有機化合物)・かび臭気分析用試料濃縮導入装置 <AQUA PT 5000J >

<AQUA PT 5000 J > およびオートサンプラー <AQUAauto 70 > は水質分析システム装置の前処理装置として安定的な販売貢献の期待が大きい我が社随一のヒット製品と成っております。第40期は、新たに <AQUA PT5000J PLUS(プラス) > を期首より発売開始し、関係メーカーとの連携を取りつつ、頭打ちとなった水質市場において、買い替え需要を確実に奪取する活動を展開しております。上期の実績は29台と計画を達成いたしております。



AQUA PT 5000J + AQUAauto70



AQUA PT 5000J 年度別販売台数グラフ

新水質基準施行に準拠した固相自動抽出装置<アクアトレス 699>

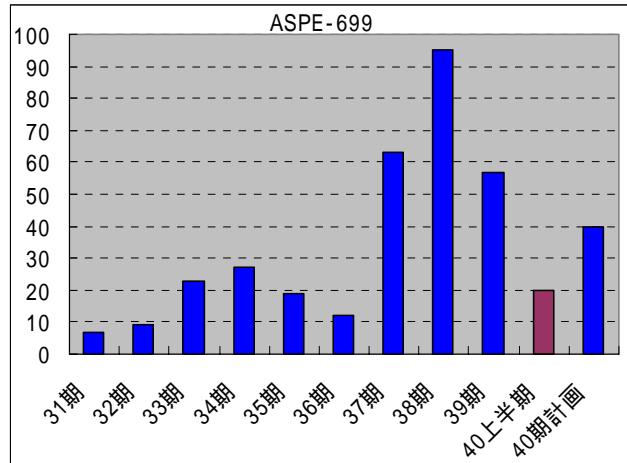
前述装置同様、平成16年4月1日施行の新水質基準において、農薬を中心とした固相前処理装置として37期、38期と驚異的な伸びを示し年間最大ヒット製品と言っても過言では無い、当社オリジナル最重要アイテムと成りました。

第40期上期の計画は、29台それに対し販売台数は20台でした。また前期比においても-41.2%でありました。下期に向けた引き合いは増えております。下期は、それらの引き合いの取りこぼしをしない、営業活動を展開して参ります。

(平均販売価格¥4,400,000)



アクアトレス ASPE-699



アクアトレス年度別販売台数グラフ

室内大気(シックハウス症候群成分)捕集用<SP208 シリーズ>

上梓以来6年目に入りました本製品は、高性能が成る故に、他社製とは異なり、室内大気試料採取だけではなく、他の大気試料採取に大いに貢献できる製品であります。

しかしながら、昨期以来、本市場は飽和状態にあり、第40期上期の販売計画台数125台に対して実績は89台。前期比1.1%の伸びと、正にこの数値がその状況を表しております。

しかし下期は、キット品と上手に絡め、巻き返しを図ります。(平均販売価格¥250,000)

室内大気捕集用 SP208 シリーズ



SP208-1000



SP208LV-30L

《医薬・バイオ市場向け製品群の動向》

試料前処理ロボット<MICROLAB(ハミルトン社)>

第38期販売実績が5台、第39期販売実績が4台、とマイナス成長ではありますが、実績ユーザーからのリピートは多く、デモを行ったユーザーにおける性能の評価はたいへん高いものとなっております。そこで第40期は、拡販協力体制を敷き販売プロモーション、引き合いフォロー、技術フォロー等のお客様に製品が届くまでの間、一連したフォローを行うことにより、受注確度を上げる活動を開始しました。その結果として、上期の販売実績数は3台と、昨期通期の販売実績をクリアしております。下期も同様な活動を展開し、通期10台を目標といたします。(平均販売価格¥15,000,000)



MICROLAB STAR



Dynamic Positioning System(DPS)

《当社標準主力製品》

新型ガスクロマトグラフ<GC-4000 シリーズ>及び新型液体クロマトグラフ<GL-7400 シリーズ>がそろって38期下期から発売開始となりました。いずれも当社の標準製品群の中で根幹となる製品であります。

新型液体クロマトグラフ<GL-7400>

<GL-7400 シリーズ>につきましては、期首よりセミナー、販売資料の整備等を進め積極的な拡販を展開いたしました。しかしながら販売台数114台、計画値に対して-24%と言う結果に終わりました。

第40期においては、発売3年目を迎えるため、今後の弊社の売上ベースとして計算可能な装置とする事を目標に、協力体制を敷き、単品カタログ発行、販売技術資料の充実、キャンペーン第2弾の実施、顧客サポート体制の充実を進め、第39期に未達成であった年間販売数量150の販売に再度挑戦いたします。



GL-7400 シリーズ

新型ガスクロマトグラフ<GC-4000>、

GCの国内市場は約135.7億円(前年比1.6%増)と推定されます。但し、本数値には本体の他に前処理装置,試料導入装置,カラム,データ処理システム,ワークステーションなど周辺機器の数字も含まれています。

GCの国内シェアは、島津が約50%と圧倒的な地位を築き、2番手としてGLと横河アリティカシステムが競っていますが、2004年度は20.2%でGLと横河アリティカシステムは同値でありましたが、その後GLは、2005年度19.2%、2006年度18.4%(予測)と減少傾向にあり、それに対し横河アリティカシステムは約20%を維持続けています。

GLの今後の取り組みとしてはシェア低下に歯止めをかけ、業界2位のシェアの確保を行うことが重要と考えます。

具体的数値としては、オープン単品での販売を含む<GC-4000シリーズ>につきましては、第40期上期実績は、販売台数65台、前期比14%の伸びとなりました。しかしながら上期計画比では、68.4%の結果となっております。上期の姉妹装置となる単能機のGC-323も含めた当社製ガスクロマトグラフの全体総販売台数は94台です。

また、下期よりGC-323はフルモデルチェンジを行い<GC-3200>と名前を変えて新発売を開始いたしました。

下期は新製品<GC-3200>高機能低価格による拡販、および<GC-4000シリーズ>においては、ヘッドスペース-GC、加熱脱着-GC、臭いかぎ-GCなどのシステム提案を積極的に進め、拡販を展開いたします。



GC-4000 シリーズ



GC-3200 シリーズ

多検体用加熱脱着装置 T - D e x

昨年 12 月に販売を開始いたしました、GC , GC / MS の気体試料導入装置として、低沸点成分から高沸点成分までの幅広い分野で性能を発揮する、多検体用加熱脱着装置です。

A T A S - G L の注入口およびメカ技術と、弊社が長年培って来た、ガスクロマトグラフの前処理ノウハウとを融合した製品です。

第 4 0 期上期の計画 7 台に対し、実績は 2 台と、まだ市場に浸透していない状況ではありますが、セミナー、展示会等を通じ、拡販に努めて参ります。(平均販売価格 ¥7,000,000)



T-Dex II

以 上

自動認識事業

中間決算説明会用資料 40期上期売上実績報告と下期売上見込み

上期売上実績報告（平成18年4月～平成18年9月）

	計 画	当期中間実績（対計画比）	前期中間実績
売 上 高	4 1 3, 0 0 0	2 6 5, 5 6 5 (64.3%)	2 7 2, 2 7 9
経 常 利 益	5 0, 0 4 0	5, 7 0 7 (11.4%)	3 0, 4 1 7
《売上内訳》			
システム関連（メンテナンス関係含む）	1 3 9, 3 0 0	7 1, 0 2 6 (51.0%)	1 1 9, 3 7 5
デバイス関連	2 7 3, 7 0 0	1 9 4, 5 3 9 (71.1%)	1 5 2, 9 0 4

自動認識技術のマーケットとその状況《日本自動認識システム協会加盟各社の集計による概要》

自動認識技術を応用した機器及びシステムの業界全体の出荷金額は、平成16年度で1,945億円から平成17年度の2,423億円へと24.6%の大幅に増加しました。さらに平成18年度の出荷金額は2,743億円と予想されており、市場は拡大傾向にあります。

増加傾向の背景には製造現場や流通システムの『効率化・省力化』に対する需要増やセキュリティ分野、アクセスコントロール（個人認識）分野の安定した需要増などに加え、食品、医療分野、アミューズメント関連への応用技術の展開など利用範囲が急拡大していることにあります。

特に当社が主として展開するRFID技術の製品は、自動認識機器市場で大きな割合を占めているバーコード技術応用製品が前年比6.8%増加（平成17年度の出荷金額1,823億円）であったのに対し、RFID技術製品は前年比約2倍（出荷金額323億円）の高い伸びを示しており、バイオメトリクス応用製品と併に市場全体の成長に大きく貢献するものとなっています。

RFID技術は平成18年度以降、各分野における実証実験から実運用段階に移行する状況にあり、認知度の高まりと併に普及率は加速的に増すと考えられております。業界各社では平成18年度の伸び率を40%以上と予想する見方が多く、数年は拡大基調で推移すると考えております。

上期営業報告

システム関連で小口受注が中心であったことによる低迷とデバイス関連で期待した遊戯機周辺機器への組込みリーダーライターが遊技機周辺メーカーの生産調整により一台も納入できない状態が発生し、厳しい状況での営業活動となりました。また、開発案件受注は3件（全て継続販売となる大型案件）でありましたが、上期中の量産納入には至らず下期以降の売上計上となります。

この結果、計画達成率64.3%（前期比97.5%）となりました。また、今期は開発案件の増加に対応できる体制強化のため技術員の増員を図りました。この結果、経常利益は5,707千円と前期を割込むこととなりました。

セグメント別営業報告

・システム関連（メンテナンス関係含む）

システム関連では上期で計画した印刷会社工場向け入退室管理システム導入（2,000万円）が棚上げになったこと。メンテナンスでNTT関連会社の全国各拠点のリプレイス工事（1,800万円）が6月に予定されていたものが12月に先延べされたこと。さらに、受注件数はほぼ前期と変わらない状況であったが【新設案件導入が32件（前期34件）増設・移設案件導入が31件（前期23件）】、300万超の受注は1件（前期では5件）と受注案件の小口化が要因となり、計画139,300千円に対し68,300千円のマイナス（達成率51.0%）前期比59.5%と低迷しました。

・デバイス関連

安定的な受注を確保したアクセスコントロール関連（機械警備関係、勤怠装置関係）は予想通り前期比 120%以上を達成しました。しかし、前期に立ち上がり、大きな期待を込めた遊技機周辺機器組みリーダライタが、遊戯施設業界の法令変更による対応で、遊技機本体の入替え投資が優先され、周辺機器の投資が先延べされた影響で周辺機器メーカーの在庫が流動しない状況が長く続き一台も出荷できないという思わぬ事態となりました。（現在も停滞している。）この結果、計画を大きく下回ることとなりました。

下期予想

	下期予想	（修正通期予想）	（前期実績）	（前期比）
売上高	384,435	（650,000）	（633,643）	（102.6%）
経常利益	34,293	（40,000）	（76,018）	（52.6%）
《売上内訳》				
システム関連（メンテナンス関係含む）	128,974	（200,000）	（216,309）	（92.5%）
デバイス関連	255,461	（450,000）	（417,334）	（107.8%）

・下期予想

下期ではシステム関連で引合い案件の内容が良好なものが多く、受注も好転してくると予想しています。NTT 関連会社の全国各拠点のリプレイスも順調に進み 12 月の売上計上も確実に前期並みの売上（216,309 千円）は達成できる見込みとなりました。しかし、上期の低迷を補い、計画（287,000 千円）を達成するまでには至らない予想です。

また、デバイス関連でも遊技機周辺機器組み案件で期待薄状況は変わらない見込みであり、引き続き厳しい状態が続きそうです。このため、システム関連で 87,000 千円、デバイス関連で 113,000 千円、合計で 200,000 千円の下方向修正を行い計画を 650,000 千円としました。

・システム関連予想の根拠

下期では上期に棚上げとなった大型案件 2 件が復活しました。受注の方向で調整中です。NTT 関連会社リプレイス案件（18,000 千円）の売上計上の決定。さらに、引合い案件数の増大と引合い案件内容の良好さが上期とは違った感触があります。加えて個人パソコン用ログイン管理システム（製品名；simLocker-G）や鍵管理ボックスシステムの受注増が予想されています。

・デバイス関連予想の根拠

下期では遊技機周辺機器組み案件は期待薄として計画を下方修正しましたが、本件を除けば良好に推移しております。大手電機メーカーからの壁付けリーダの予想を上回る受注や新規案件のフィットネスクラブ向け情報端末開発受注（38,000 千円：来期での継続納入有り）など、期待できる案件が多くあります。

また、フィリップス社（現 NXP セミコンダクター社）とソニー社が共同開発した次世代技術の IC チップ（NFC チップ）をリーダライタユニットメーカーとしては国内で唯一製造の権利を獲得しました。このチップを搭載したリーダライタユニットを下期の後半より営業できる準備が整いました。

今期で同チップ搭載機を 3,000 台以上の販売を計画しております。

NXP 社 (フィリップス社) 製 IC チップ NFC の概要と NFC チップ搭載製品の営業展開について

1 . NFC とは ・ ・

13.56MHz 帯域の電波を使用した『近接型』無線通信の規格です。(ISO-18092)

本規格はフィリップス社とソニーが共同開発し規格化したものです。

開発の目的としては携帯電話、デジタルカメラ、PDA、パソコン、ゲーム機、パソコン周辺機器といった機器同士が NFC チップを搭載することで 10cm 程度に近づけると双方が認識しあらゆる種類のデータを最大伝送速度 424kbps で情報交換ができるようにし 13.56MHz 帯域の無線通信規格の新たな可能性を追求すること。

また、フィリップス社の mifare 技術は世界各地の交通機関をはじめ、米 Visa などの金融分野で利用されています。

一方ソニー社の FeliCa 技術は、中国の香港やシンセン、シンガポール、日本などで、主に交通機関や金融分野が採用しています。

この mifare 仕様と FeliCa 仕様が互換性を持つことにより世界的でオープンなインフラを築くことが可能となります。

mifare の基本仕様と FeliCa のプロトコルを同一 IC チップで実現し更に、NFC チップ同士が双方向に情報交換することにより、新たなインターフェースとしての役割を期待されていることは RFID 技術のさらなる発展が予想されるものであります。

2 . 当事業本部の取組み

当事業本部では 2 年程前から独自に培ってきた mifare 技術と FeliCa 技術の視点から NFC の可能性について研究とマネジメントを行ってきました。

結論として、NFC が持つ mifare と FeliCa のマルチユースという特徴に焦点を絞り製品開発を行うことは大きな利点があると判断しました。

開発を実現するためにフィリップス社と交渉を重ねてきましたが、当初フィリップス社側は携帯電話やパソコン周辺機器向けなどの大量に使用する業界でなければ供給しないとの方針でした。しかし、議論を重ねた結果、ディーラーであるインフォにクス社の理解を得られ、現在フィリップス社も“技術サポート要員なし”であれば日本国内でジーエルサイエンスにのみ供給するとの方向を出すに至りました。

同条件は当事業本部にとって無理のない条件であると判断すると共に日本国内で先行開発することは製品展開で優位性を出せるものと考えております。

また、先行してマネジメントしてきたことで具体的な製品の企画も複数存在し NFC チップの供給が実現できれば直ぐにでも製品開発に取組める体制になっております。

3 . 製品開発と営業展開

マルチプロトコル基板ユニットの製品化 (mifare、FeliCa)

- ・ FeliCa 暗号対応版 ・ ・ ・ 情報端末機器メーカー向け、ゲーム機メーカー向け、タイムレコーダメーカー、その他
- ・ FeliCa 暗号非対応版 ・ ・ ・ 警備会社 (機械警備機器メーカー) 向け、錠メーカー向け、ゲーム機メーカー向け、その他

マルチプロトコル USB インターフェースリーダーライタの製品化 (mifare、FeliCa)

- ・ FeliCa 暗号非対応版 ・ ・ ・ 警備会社 (機械警備機器メーカー) 向け、SI 企業向け、ソフトハウス向け、その他